

令和3年度 中部森林技術交流発表会 発表課題一覧表

第1日目 (1月26日)

はオンラインによる質疑応答

“○印”は発表者(または代表者)

民国別	発表部門	番号	課題名	所属	配属・職名	氏名	開始時刻		
国有林の部	森林技術	1	多様な森林づくりを目指した針広混交林造成	技セン	行政専門員 センター付	○ カミソウレ シズオ 上澤上 静雄 ヨツダケ マコト 四ツ嶽 誠	10:30		
		2	針広混交林への誘導試験 ～伐採から現在までの検証～	富山署	森林整備官 主事	○ ニシカワ タイキ 西川 大貴 イマイ アユム 今井 歩	10:45		
		3	広葉樹植栽後10年経過時点での現状と今後の森林づくりの方向性 ～古峠国有林の事例～	飛騨署	森林官補	○ オオスミ ショウマ 大隅 翔馬	11:00		
		4	天然力を活用した再造林について ～金沢山ヒノキ育成複層林モデル林～	南信署 信州大学農学部 助手 信州大学農学部 教授	森林官	○ オクヤマ アヤナ 奥山 綾菜 ○ オオツク ダイ 大塚 大 ウエキ タツヒト 植木 達人	11:15		
		5	木曽ヒノキ林成立以前の森林から森林管理を考える ～古いヒノキ根株の年代推定より～	ふれセン 森林総合研究所	主事	○ オカモト コウダイ 岡本 昂大 サカイ タケシ 酒井 武	11:30		
		6	木曽ヒノキ天然林における種子調査中間報告 ～温帯性針葉樹林の保存・復元に向けて～	木曽署	事務管理官 首席森林官	○ ミヤケ ユウヘイ 三宅 悠平 ナカジマ カズミ 中島 和美	11:45		
		休憩							
		7	浸食防止及び植生の自然侵入促進をはかる 土壌藻類資材の活用について	東濃署 株式会社 日健総本社	災害対策指導係長	○ ジョウクラ ケイスケ 城倉 恵介 アダチ ユキヒロ 足立 幸大	13:00		
		8	自然侵入促進工による林地復旧の状況 (経過報告)	伊那谷 治山	流域保全治山対策専門官 治山技術官	○ ミヤザワ マサヒロ 宮澤 昌弘 ツムラ ナオキ 津村 直樹	13:15		
		9	滝波谷における治山事業の取組	岐阜署 株式会社 中部森林技術コンサルタンツ	治山技術官	○ カウ サトミ 加藤 里実 ○ コナミ マサル 児波 昌則	13:30		
		10	UAVを活用した森林官業務の効率化	技セン	主事	○ メザキ タクミ 目崎 拓海	13:45		
		11	ドローンによるクマ剥ぎ被害木の把握 (AIを活用した自動抽出による被害把握の省力化について)	北信署 信州大学	一般職員	○ アサヒ カンジ 朝日 莞二 ハザマ ヨシノ 陌間 芳野	14:00		
12	電波不感地域における通信環境構築の試み	富山署	治山技術官 署長	○ スケナリ リョウイチ 祐成 亮一 ガドワキ ヒロキ 門脇 裕樹	14:15				
休憩									
森林保全	森林保全	13	循環型林業確立に向けたニホンジカ対策モデルの検討 (3年目の取組)	愛知所	一般職員 森林技術指導官	○ ハタモト ユウタ 旗本 悠太 イナガキ アキトシ 稲垣 明敏	14:40		
		14	イヌワシ生息地の森林環境保全整備箇所における生息環境改善の試み(中間報告2)	東信署 株式会社 環境アセスメントセンター	森林技術指導官	○ キウチ シンゲ 木内 重明 ○ ミスカミ タカヒロ 水上 貴博	14:55		
		15	中信森林管理署における松枯れ被害対策	中信署	森林整備官 総括森林整備官	○ カノウ コトネ 加納 琴音 スナドメ ナオヒロ 砂留 直浩	15:10		
森林ふれあい	森林ふれあい	16	「檜皮の森」森林整備協定の取組について	南木曽 支署 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 理事	森林技術指導官	○ ハラ ヒロミ 原 浩美 ○ カワムラ マサシ 河村 雅史	15:25		
		17	国有林フィールドを活用した多様な森づくり ～豊川流域の市民・企業・行政による原生林復元を目指して～	愛知所 特定非営利活動法人 穂の国森づくりの会	一般職員 主任森林整備官	○ アオキ リカ 青木 理可 イトウ ジュン 伊藤 淳 ○ モリタ ミノル 森田 実	15:40		
休憩									
講評等 16:15～									

第2日目（1月27日）

はオンラインによる質疑応答

“○印”は発表者（または代表者）

民国別	発表部門	番号	課 題 名	所属・職名・学年	氏名	開始時刻
民有林・学生の部	森林技術	18	DEMデータを活用した高性能林業機械使用基準マッピング	信州大学農学部 4年	○ カラサフ リョウ 唐澤 亮	9:30
		19	ドローン画像を活用して作成する施業提案書等への林業普及指導員の支援の取組み	長野県北アルプス地域振興局 林務課	○ デグチ ヨシナリ 出口 栄也	9:45
	森林保全	20	葉の形態の生育段階間・樹種間比較と実生の形態が動態に及ぼす影響	名古屋大学農学部 4年	○ ユミゲタ ユキ 弓桁 侑季	10:00
		21	岐阜県下に植栽したコウヨウザンの初期成長	岐阜県森林研究所 研究員 岐阜県立森林文化アカデミー 准教授	○ ウンキ キョウスケ 宇敷 京介 ○ オオボラ トモヒロ 大洞 智宏	10:15
	森林ふれあい	22	信越トレイル苗場山へ延伸 ～人と地域を結ぶ、全長110kmのロングトレイル～	NPO法人 信越トレイルクラブ	○ オオニシ アツシ 大西 宏志	10:30
休憩						
講評・審査結果(11:10～)						

令和3年度 中部森林技術交流発表会 発表課題一覧表

民国別	部門	番号	課題名	所属	発表概要
国 有 林 の 部	森林 技術	1	多様な森林づくりを目指した針広混交林造成	森林技術・支援センター	これまで多様な森林づくりを目指して実施された針広混交林造成試験林について、その後の状況、特に人工林に侵入した広葉樹の生育状況を調査し、針広混交林造成の適切な施業方法について考察。
		2	針広混交林への誘導試験 ～伐採から現在までの検証～	富山森林管理署	昨年で伐採から36年、試験地設定から25年が経過したことから、伐採から下刈り終了までを検証することで、初期段階の林分形成の解明と、誘導区と対照区の林分生長を比較し、今後の課題について発表。
		3	広葉樹植栽後10年経過時点での現状と今後の森林づくりの方向性 ～古峠国有林の事例～	飛騨森林管理署	スギ人工林伐採跡地の分収造林地に広葉樹林施業試験地を設定。植栽後10年経過時点の施業の違いによる樹種構成、個体サイズを調査し、その結果を踏まえた今後の森林づくりの方向性についての考察を発表。
		4	天然力を活用した再造林について ～金沢山ヒノキ育成複層林モデル林～	南信森林管理署 信州大学農学部	信州大学農学部と連携して天然更新施業に関する取組を行っている金沢山ヒノキ育成複層林モデル林において、令和3年度に上層木伐採を実施した。伐採後の現地調査から再造林について考察し発表。
		5	木曽ヒノキ林成立以前の森林から森林管理を考える ～古いヒノキ根株の年代推定より～	木曽森林ふれあい推進センター 森林総合研究所	森林総合研究所と協働して赤沢木曽ヒノキ天然林内の古い根株の生育年代を酸素同位体比分析から明らかにした。そこから人の営みを受ける以前の森林の姿を推定し、森林管理に関する考察を行う。
		6	木曽ヒノキ天然林における種子調査中間報告 ～温帯性針葉樹林の保存・復元に向けて～	木曽森林管理署	平成17年より天然林伐採跡地において種子トラップを設置し、木曽ヒノキ・サワラ等の種子の豊凶調査を行ってきた。令和元年度に豊作があったことから蓄積した調査データについて考察した。
		7	浸食防止及び植生の自然侵入促進をはかる土壌藻類資材の活用について	東濃森林管理署 株式会社日健総本社	マサ土が広がる国有林内の林道等では法面崩壊も多く発生し林地復旧が課題となっており、自然界の課程をもとに実際に存在する藻類を活用した方法により、法面保護や林地復旧への誘導を目的とした工法の考察を発表。
		8	自然侵入促進工による林地復旧の状況 (経過報告)	伊那谷総合治山事業所	平成29年度に試験施工した山腹法面周辺からの植物の自然侵入により植生回復を図る「自然侵入促進工法」について、令和元年度・令和3年度に検証地を調査・比較した結果を発表。
		9	滝波谷における治山事業の取組	岐阜森林管理署 株式会社中部森林技術コンサルタンツ	平成30年7月豪雨により、板取川上流域の滝波山で発生した大規模崩壊地の復旧方法を検討するため、令和2年度に地質調査を行った。崩壊地のデータが解析できたことから事業効果のある復旧計画に活用していく。
		10	UAVを活用した森林官業務の効率化	森林技術・支援センター	平成28年度から業務の省力化を図るために導入されたUAVの使用状況を鑑みて有効な活用を目指し、特に現場でのUAVによる省力化、効率化可能な森林官業務(調査、作業など)について検討。
		11	ドローンによるクマ剥ぎ被害木の把握 (AIを活用した自動抽出による被害把握の省力化について)	北信森林管理署 信州大学	当署管内でセンサーカメラの撮影頻度やクマ剥ぎ被害が顕著になる中、信州大学との協定に基づき、霊仙寺山国有林において、ドローンによる空撮データからAI(機械学習)を用いて、被害木を自動抽出する技術を検証したので共同で発表。
		12	電波不感地域における通信環境構築の試み	富山森林管理署	携帯電話等の電波不感地域で実行中の工事において、近隣の受信可能な電波を工事施工箇所まで延長するための機器選定、設置を行った。構築した環境で遠隔臨場の実施を試験し、課題および今後の運用に関する考察を発表。

民 国 別	部 門	番 号	課 題 名	所 属	発 表 概 要	
国 有 林 の 部	森 林 保 全	13	循環型林業確立に向けた二ホン ジカ対策モデルの検討 (3年目の取組)	愛知森林管理事務所	令和元年度から取組んでいる二ホンジカ対策試験地において、「くくりワナ捕獲、獣害防護柵、単木保護資材」による経過観察調査の結果を比較した考察と今後の取組について発表する。	
		14	イヌワシ生息地の森林環境保全 整備事業箇所における生息環境 改善の試み(中間報告2)	東信森林管理署 株式会社環境 アセスメントセンター	東信森林管理署管内のイヌワシ生息地において、国有林施業との両立を図る観点から生息環境の改善策が平成27年度以降実施されている。本発表では、前回(令和元年度)報告以降の成果と今後の展開について報告する。	
		15	中信森林管理署における松枯れ 被害対策	中信森林管理署	平成18(2006)年度より始まった中信森林管理署の松枯れ被害に対する各種取組を振り返り、現在の被害状況と地域住民からの要望を踏まえた早期緑化復元を図るための対策に関する考察を発表。	
	森 林 ふ れ あ い	16	「檜皮の森」森林整備協定の取組 について	木曽森林管理署 南木曽支署 公益社団法人 全国社寺等屋根 工事技術保存会	平成14年度から実施している「檜皮の森」森林整備協定の取組について、今年度で20年目を迎えたことから実績を取りまとめるとともに、皮を剥いたことにより立木に与えた影響について調査を行ったことから報告する。	
		17	国有林フィールドを活用した多様 な森づくり ～豊川流域の市民・企業・行政に よる原生林復元を目指して～	愛知森林管理事務所 特定非営利活動法人 穂の国森づくりの会	穂の国森づくりの会は、豊川の源流部で段戸裏谷原生林に隣接した皆伐跡地において「ふれあいの森」協定を平成13年度に愛知森林管理事務所と締結。下流部の小学生や漁業関係者等と共に原生林の復元を目指した20年間の取り組みを発表。	
	民 有 林 ・ 学 生 の 部	森 林 技 術	18	DEMデータを活用した高性能林 業機械使用基準マッピング	信州大学 農学部	リモートセンシング技術で木材生産条件を事前把握するため、ドローンレーザで取得したDEM(数値標高モデル)データを活用して、高性能林業機械を使用できる作業範囲の視覚化と単木レベルで高性能林業機械での伐倒可否の事前分類を行った。
			19	ドローン画像を活用して作成する 施業提案書等への林業普及指導 員の支援の取組み	長野県北アルプス 地域振興局林務課	森林組合の施業計画地で、ドローン画像を用いて取得した詳細な森林資源情報を基に、施業内容や事業費、材の販売価格等を検討して森林所有者に説得力のある施業提案を行うことを目的に、林業普及指導員が支援に取り組んだ。
森 林 保 全		20	葉の形態の生育段階間・樹種間 比較と実生の形態が動態に及ぼ す影響	名古屋大学農学部	段戸国有林において、葉の形態が3つの生育段階間や19の樹種間でどのように変化するのか、実生の形態が実生の生死にどのような影響を及ぼすのかについて発表する。	
		21	岐阜県下に植栽したコウヨウザン の初期成長	岐阜県森林研究所 岐阜県立森林 文化アカデミー	岐阜県内8か所に植栽されたコウヨウザンの初期成長について調査を行った。その結果、植えた場所によって成長が異なること、また、獣害(特にウサギ)対策が必要なが分かった。	
森 林 ふ れ あ い		22	信越トレイル苗場山へ延伸 ～人と地域を結ぶ全長110kmのロ ングトレイル～	NPO法人 信越トレイルクラブ	ボランティアを始め、地域や関係者の方々とともに歩み続けてきた信越トレイル。2021年9月、苗場山まで延伸し、全長110kmとなったトレイルの紹介と、これまでの取り組みの成果と展望、課題を発表する。	